

令和7年2月28日

南城市長 古謝 景春 殿

南城市上下水道事業運営検討委員会

会 長 島袋 隆志



南城市水道事業再評価について（答申）

令和7年1月30日付け南上水第621号にて諮問のあったみだしのことについては、下記のとおり答申します。

記

1 はじめに

近年、水道事業を取り巻く環境は、水道施設の老朽化による事故、頻発する自然災害による水道施設の被災、有機フッ素化合物PFOS、PFOAによる水質汚染など、大変厳しい状況にあり、水道事業の運営には、施設の耐震化とともに、安心、安全な水の確保が求められています。

このような中、平成27年度から始まった水道施設整備計画が、令和6年度で10年を経過し、再評価実施により事業の見直しが行われたことは、時宜を得たものと考えます。

2 事業の事前評価について

第1次拡張事業（第3回変更）における水道施設整備計画（平成27年度～令和11年度）に対する当委員会の意見は次のとおりです。

(1) 事業を巡る社会経済情勢の変化について

平成26年に行った事前評価では、人口、給水量が令和2年度でピークを迎えると見込まれていたが、人口は令和2年度以降も増え続けている。今回の再評価では令和2年度以降も人口が年約500人増加し続けていることから、

年平均増減率で人口推計し、本事業期日の令和11年度まで人口、水量が増え続けることを確認した。また、費用的な面で事業計画の遅延があることから、採択されている補助事業以外にも活用できる補助事業がないか模索されたい。

採用している水道管は耐震性を有し、かつ耐用年数の長いダクタイル鋳鉄管（GX形）、高密度ポリエチレン管（HPPE）である。引き続きライフサイクルコストの低減と水道施設の強靱化に取り組んでいただきたい。

## （2）事業の進捗状況

人件費高騰、物価上昇及び配水池築造予定地の変更により総事業費が大幅に増加し、残る事業費では全ての事業を実施することが難しい状況にあり、優先順位を考慮したうえで実施する事業を選択する必要がある。

老朽管の更新を進めるとともに、類似施設の統廃合を行うためにも、糸数ポンプ場の増補改良を追加し、水道施設の維持管理効率化を推進していただきたい。

## （3）新技術の活用、コスト縮減及び代替案立案の可能性について

工事コスト縮減に浅層埋設に対応した資材の採用、環境負荷低減策として再生材の利用を引き続き行っていただきたい。

## （4）事業の投資効果分析について

南城市水道施設整備事業における費用便益比は9.29であり、残事業の費用便益比は28.52である。どちらも1.0を上回っていることから、投資効率性は妥当であると判断できる。

# 3 総合評価

事業再評価の結果については、妥当であると判断します。

事業内容は、基幹管路の更新に合わせ、耐震管を採用するなど、耐震化及び有収率の向上に留意されてきたと解されます。

南城市水道施設整備事業の残事業においては、施設の統廃合により固定経費を削減し、水道施設の維持管理効率化を推進するとともに、更なる効率化に向け、他事業体との広域連携も検討してください。

水道事業における情報をより広く周知するとともに、技術者育成や技術継承に努めつつ、健全性を保ち、安全で安心な水道水の安定供給を図るよう進言します。